

平成18年10月21日

〒590-0494  
京都大学原子炉実験所  
助手・小出裕章様

〒177-0041 4-25  
蒼天社政治情報センター  
代表・石川鐵也



## 公開質問状 II

平成18年10月10日第592-37-17609-5号配達記録郵便での公開質問状に対する文書回答(10月17日付)有り難うございました。

さて、回答書を拝読しその理解に努めました。が、当方の浅学故でしょうか、残念ながら疑義払拭には至りませんでした。よって、貴殿言質(再度のご質問があればもちろん答えます)に甘え、疑義残る点を下記再質問させていただきます。お忙しい中ご面倒とは存じますが、一週間以内(できるだけ)での文書回答、宜しくお願い申し上げます。

### — 記 —

1. 回答書で「国の政策は広く、多くの事柄を考慮に入れながら、練り上げるものです」と述べておられますが、①多くの事柄とは一体どの様なもののでしょうか？  
また、「そして基本的に日本が頼るべきエネルギー源は太陽エネルギーしかありません」と述べておられますが、②現状からの具体的な転換策とは一体どの様なもののでしょうか？ 是非とも各項目ごとにその詳細をご教示いただきたい。
2. 回答書で「電力が原子力を続けてきたのは、独占企業として事業法によって利益を保証されてきたからです」と決めつけておられますが、事業法には供給義務も課されており、もし、原子力発電が天候によって左右されるものならば企業としても採用しなかったのではありませんか。①貴殿見解は如何でしょうか？  
また、「事故があればいっせいに停止を余儀なくされる原発にもまた安定供給に問題があります。原子力は安定電源だなどという主張であればそもそも誤りです」と決めつけておられますが、②貴殿は、安定電源の意味をどの様に認識されているのでしょうか？ 是非とも各項目ごとにその理由と併せてご教示いただきたい。
3. 回答書内容(議論は正確にすべきものと思います)に基づき、何度も聞き直しましたが、確かに「広井さんのおっしゃったように、何か事故が起こって、都会で起きればリスクは大きい、たくさんの方が犠牲になる。でもいいですよ。私はそうなった方が良くと思います」と話されております。その上で、回答書をもって「原発事故はどこで起こしてもいけません。そのためには、原発そのものを廃絶するしかないのです」といった極論でしめているのです。  
これでは、①「あまりにも無責任」と断じざるを得ませんが如何でしょうか？  
また、②心底から「原発そのものを廃絶すべき」と考えているのであれば、何故、

原子炉実験所の助手を辞めて太陽エネルギーを研究されないのでしょうか？不思議でなりません。是非とも各項目ごとにその理由と併せてご教示いただきたい。

4. 回答書で「高レベル廃物の管理に必要な時間の長さは100万年です。いったいどのような科学的な根拠をもって安全の保証をするのですか？安全の保証ができないものは作るべきではない、即刻原子力発電を廃止するというのが私の主張です」と述べておられますが、①貴殿は、これ以上の科学の進歩はあり得ない、と断じるのでしょうか？

また、②即刻、原子力発電を廃止すれば、本当に、それが国民の為になると信じているのでしょうか？是非とも各項目ごとにその理由と併せてご教示いただきたい。

5. 私は常々、「安全面だけで防災を語るべきではない。避難問題や補償問題をも考慮すれば、人口の多い所より少ない所に誘致した方が良いに決まっている。にもかかわらず、無責任な人々は、きちんとした議論もせずに感情的になり、『過疎地を見殺しにするのか』などと騒ぎ立てる。一方では安全を唱えながら、一方では無責任論をまくしたて、その矛盾にも気づかないのだ。避難先の確保や交通事故などの二次災害、生活保障問題等々、こういった事柄の一つひとつを積み重ねれば、如何に無責任論者といえども理解せざるを得ないはずだ」などと説いておりますが、本件に対する貴殿見解は如何でしょうか？その理由と併せてご教示いただきたい。

以上